

私たちが つくりたい 暮らしの えほん

大石幾・町をつくる
9つの価値観



はじめに



このえほんを手にしたみなさんへ

みなさんは、大磯町のどんなところが好きですか？

山があって、海もある、豊かな自然。

東京方面から電車で揺られ、駅に降り立ったときにホッとする、町並み。

西暦 600 年代には、相模の国の中心都市として栄え、江戸時代には宿場町、

明治期からは、海水浴場が始まり 8 人もの首相が暮らした歴史や文化。

代々続く老舗や個性あふれるお店、地元の野菜や魚が買えるお店。

この町の暮らしを、もっと楽しくしようとする人と人とのつながり。

ほかにも、まだまだたくさんあるかもしれませんね。

大磯町では、平成 25 年から町内の観光に関わる 22 の団体や企業の代表者が集まり、町に愛着を持ち、誇りを持ってもらえるような「大磯ブランド」とは何か、この町にとっての「観光」とは何かをじっくりと長い時間をかけて話し合ってきました。その話し合いのなかで、町民のみなさん一人ひとりが、大磯町のことを好きになり、自ら観光大使となって町の魅力を発信することが一番良いのではないかと気がつきました。

大磯町の魅力は、この町ならではの「豊かな暮らし」が核となるはず。わたしたちは、その魅力を改めて知ってもらい、大好きな人をもっともっと増やしたい。そのために、この町の暮らしにはどんな価値があり、楽しさがあるのか、みんなで考え、「9つの価値観」として絞り込みました。

このえほんを通じて、町民のみなさんには、住んでいる町をもっともっと好きになってもらえたら。そして、町外のみなさんには、この町に興味を持つきっかけになれば。それぞれの方にとっての、この町の魅力を発見するお手伝いできれば、うれしいです。

大磯町新たな観光の核づくり推進協議会

もくじ

ページ

2 はじめに

3 もくじ

大磯町をつくる 9 つの価値観

4 ① 自然との共生

6 ② つながり

8 ③ 文化の継承

10 ④ 地元優先

12 ⑤ 独自性

14 ⑥ 手づくり

16 ⑦ 地産地消

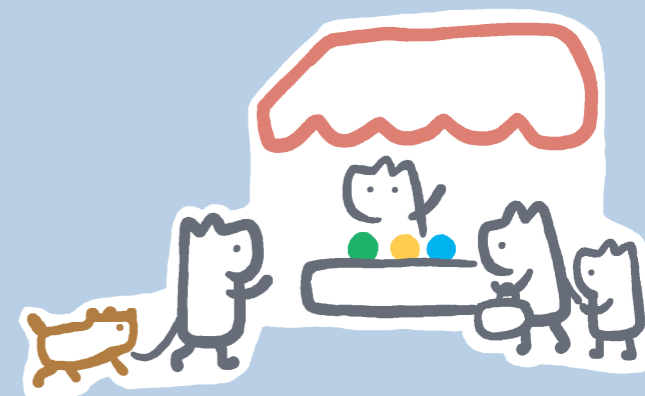
18 ⑧ 歩いて楽しい

20 ⑨ 創造

22 大磯の魅力ってなんだろう？

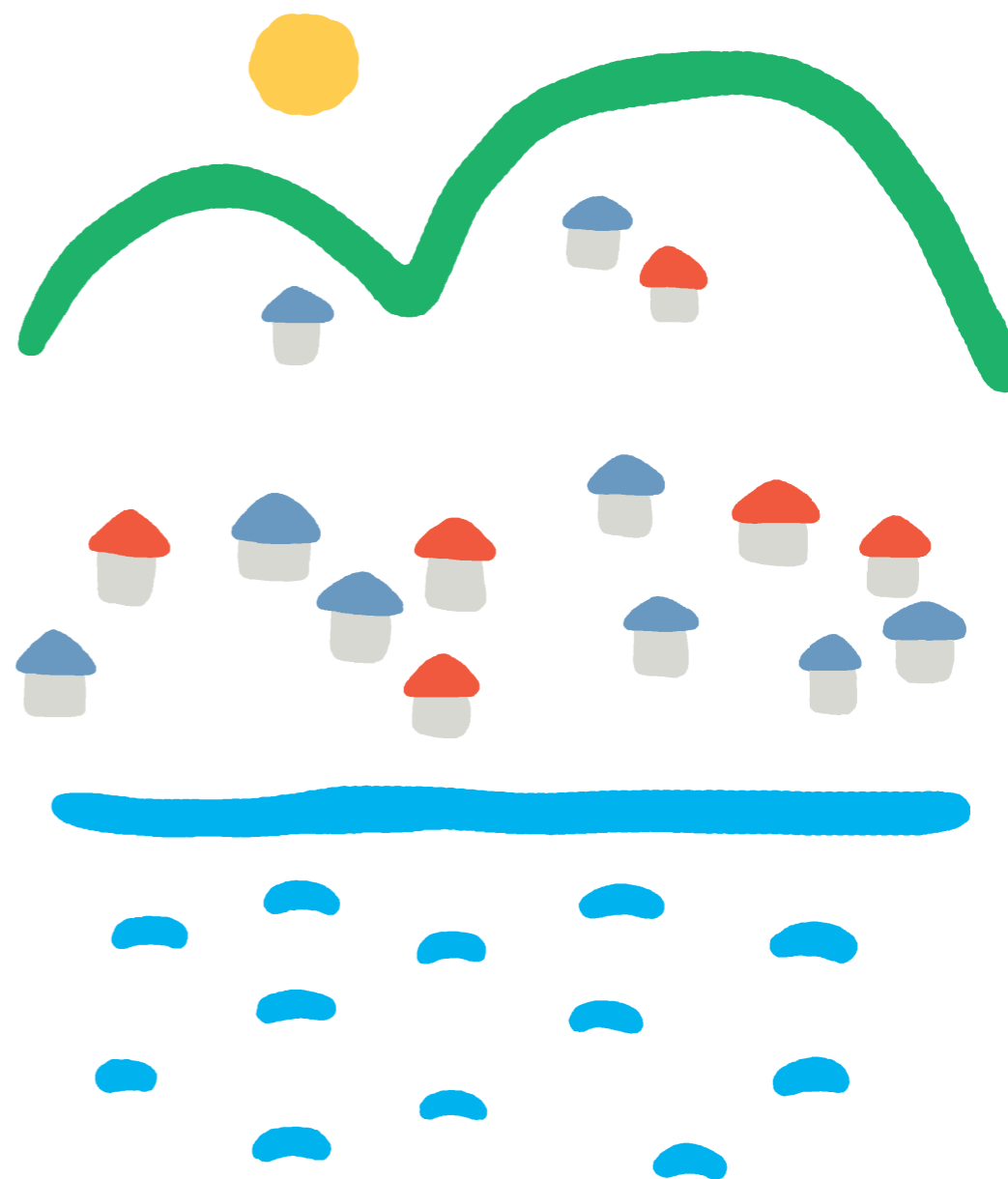
～大磯町民が感じる、町のリアルな魅力～

30 おわりに



大磯は山と海がとっても近い町 いつも自然と一緒に暮らし

大磯町の大きな魅力は、山と海がとっても近いこと。
この景観が古くから愛され、大磯町の歴史をつくってきました。
5月下旬頃、山あいには蛍がふわりと夜空を舞い、
夏には日本初の大磯海水浴場で泳いだり、
サーフィンをしたり、海遊びも楽しいですね。
日常のすぐそばに自然があるので、
子育て世代のみなさんにとっては、元気いっぱいの子どもたちに
自然を学ばせてあげられるとっておきの環境です。
この豊かな自然とともに、これからも暮らしていきたいですね。



①自然との共生

大磯が大好きな人が集まる コミュニティがたくさん



大磯町の人口は、およそ3万人。

東西に約7.6km、南北約4.1kmの横に長い小さな町です。

町を歩けば、お友だちや知り合いに会う。

このサイズ感が、人と人の距離を近くしているかもしれませんね。

古くから続く伝統行事を守り続ける

昔ながらの集まりをはじめ、新たなイベントを立ち上げ

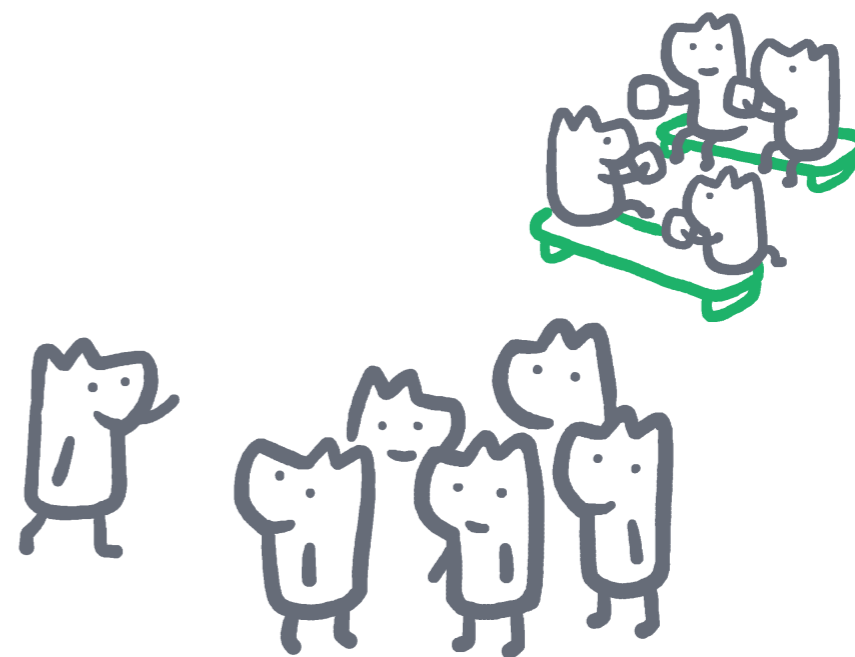
運営するコミュニティも存在しています。

「大磯が大好き」を合言葉に、

多くの世代で集まり、ワイワイ、ガヤガヤ。

知り合いが増えると、暮らしはもっと楽しくなります。

まずは町でおつきあいする仲間を増やしてみませんか？



②つながり

お祭りや文化を守っていく 歴史が積み重なってできた町

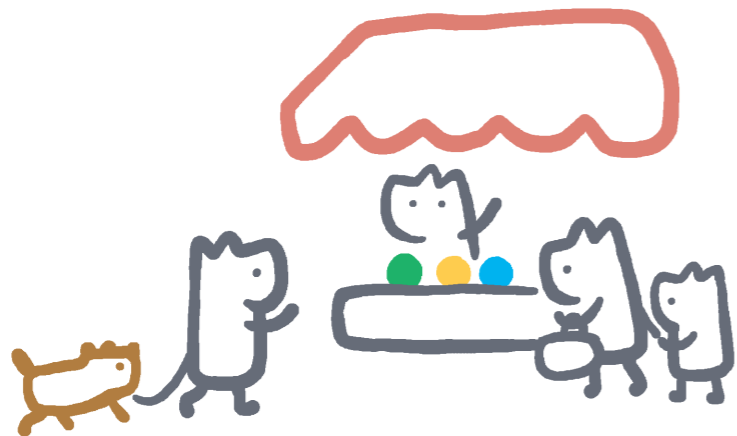
大磯町には、1000年以上の歴史がある相模国府祭、約700年前にはじまった御船祭、約400年続く左義長など古くから続くお祭り文化が残っています。それは、古くから現在に至るまで、大磯町には歴史や文化を大切にすることが暮らしてきたことを伝えています。その一方で、江戸時代には宿場町として、明治期から8人の首相が暮らす別荘地として、新しい変化を受け入れる先進的な町でもあります。そんないくつもの歴史が積み重なる、大磯ならではの空気感をつないでいきたいですね。



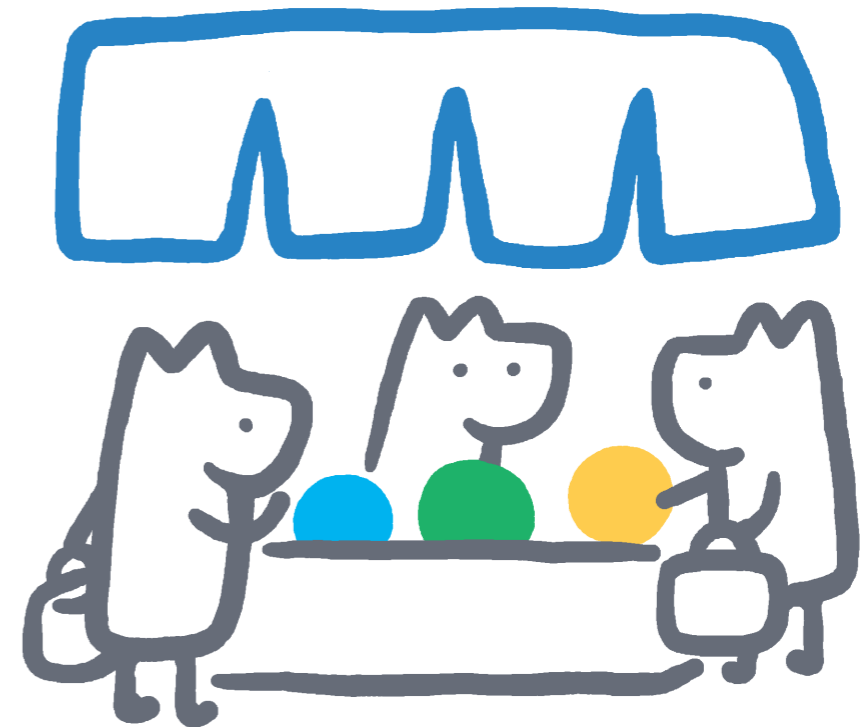
③文化の継承

町で愛されるお店を大切に 地元で買い物しよう

みなさんは、普段、食材をどこで買っていますか？
大磯には、魚屋、お肉屋、食料品店など、
毎日の食卓を豊かにしてくれる味の確かなお店があります。
個人店では、常連になると、
名前を覚えてもらえたり、レジで世間話をしたり、
お店の人に会いに行くことも楽しみのひとつですよ。



毎日の買い物は、身近な仲間やご近所さんの生活に
ものすごく直結します。せっかくお金を使うなら、
町の魅力をつくってくれているお店に使いたいですね。
外で食事をする時のお店選びも、
ちょっぴり意識してみてくださいね。



④地元優先

大磯にしかないお店がある それがこの町の魅力です

大磯町には、町外の人へ自慢したくなる名店があります。
創業 100 年以上も続く和菓子店、蒲焼屋、料亭、かまぼこ屋など
「大磯はいい町だね」と思わせてくれるお店ばかりです。
最近では、カフェや雑貨屋など、
魅力的な店主が開く個人店が少しずつ増えています。
これからも大磯町にしかない独自のお店が
あふれる町にしていきたいですね。



⑤独自性

“手づくり”が あふれる暮らし



大磯町では、毎月第3日曜日に大磯港で「大磯市」が開催されています。「大磯市」は、町内を中心とした出店者が“手づくり”したものが集まる地元の朝市（夏は夜市）です。飲食をはじめ、陶芸、家具、洋服、ガラス細工など、つくり手とお客さん、あるいは、つくり手とつくり手が会話しながら、作品との出会いを楽しむことができます。もし、ものをつくるのが得意であれば、出店もできます。買ったり、つくったり。手づくりがあふれる暮らしが気軽に始められますよ。

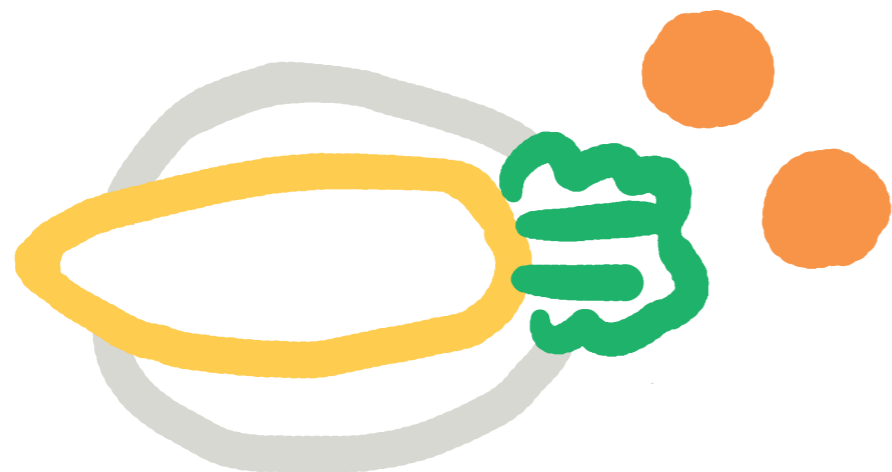
⑥手づくり

産地がすぐそこ 毎日おいしい暮らし

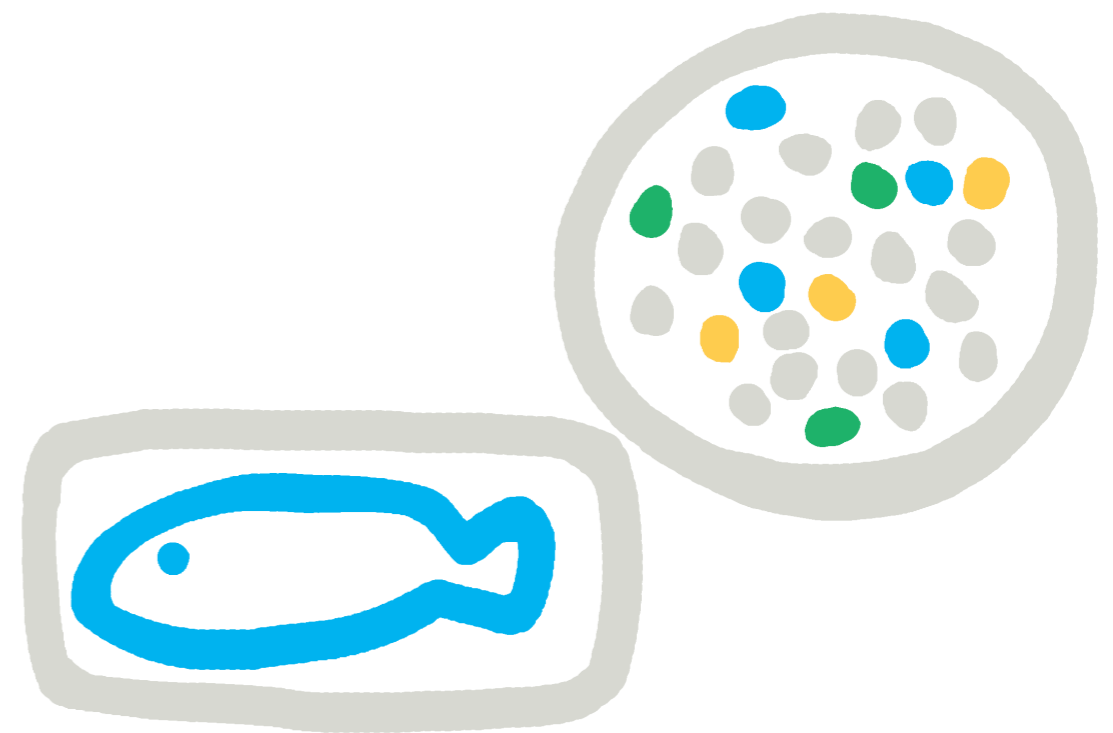
大磯町は、産地がとても近い町です。

町内の農地の近くには、直売所や無人販売があり、
農家さんたちが朝採ったばかりの旬の野菜が並びます。

それぞれの農家さんにファンがいて、
店頭で並ぶと、あっという間に売れ切るほどの人気ぶりです。



ほとんどのお店は、数や量がたっぷりでお値段が、
驚くほど安いので、利用しないのはもったいない！
町を歩きながら、お気に入りのお店を見つけると、
毎日のごはんの時間が、もっと楽しくなりそうですね。



⑦地産地消

昔ながらの路地が好き 町を歩いて楽しもう

大磯町を歩いていると、ふいに、すてきな路地に出合います。
明治時代の面影が残るお屋敷の生垣、
日本家屋が並ぶ入り組んだ細い路地など、
残っているのは、昔から町の人たちが大切に景観を守ってきたから。
その想いは、今へと脈々とつながり、自宅のお庭に花を植え、
景観を楽しんでもらおうとする方も多いですね。
お気に入りの路地をすり抜け、ふいに香る花の匂いに
季節を感じながら、家へと帰る。
そんな小さな幸せを感じられる暮らしを続けたいですね。



⑧歩いて楽しい

ひと手間かける ていねいな暮らし



旬のおいしい食材が手に入りやすい大磯町には、
お料理好きの人がたくさん暮らしています。
魚の干物をつくったり、みかんでジャムをつくったり、
のんびりと時間をかけ、手間をかけることを楽しむ。
料理だけでなく、家庭菜園、ガーデニング、大工など
なんでも手づくりする人が多くありませんか？
手を動かすと、心も動く。
心が動くことに時間をたくさん使い、暮らしを楽しむ。
それは生きていく上で、とても豊かなこと。
大磯町で“ていねいな暮らし”を始めてみませんか？



⑨創造

大磯の魅力ってなんだろう？

大磯町民を感じる、町のリアルな魅力。



町の魅力の感じ方は人それぞれ。実際に大磯の町で暮らしている方々にとって、日々リアルに感じる町の魅力はなんだろう？そんな疑問を持って、実際にさまざまな活動をされている3人の町民の皆さんにお話を伺いました。

それぞれにとっての大磯の魅力

—— まず最初に皆さんが感じている大磯町の魅力を教えていただけますか？

藤澤 僕は気候風土だと思っています。大磯丘陵があることで、夏は涼しく、冬は温暖という気候がつくられていて、それが大磯の魅力の核なのではないかと。明治時代、大磯は「別荘銀座」なんて言われるほど、数多くの政財界の人や著名人が別荘を構えていたそうです。なぜ、多くの方々がこの地を選んだのか、いろんな理由があると思うんですけど、やっぱり気候が良かったという点が大きな理由なんじゃないかなと思うんです。僕自身も、住んでいて日々気候風土の良さを感じています。

岩田 そうですね。駅を降りたときにほっとする感じ、ありますね。

藤澤 ほっとしますよね。都内で仕事をして大磯に帰ってきて、駅降りたときの空気感が好きです。実際に気温が暖かいというか。海と山があり、この

気候はずっと昔からそう変わっていないはずだと思うんです。だから僕の中では気候風土が大きな魅力ですかね。

岩田 私はこれまで鎌倉、藤沢、大磯と県内でも3箇所移り住んできました。たしかに、気候風土は大磯の魅力の1つかもしれませんね。この10数年、地域の活動をする時間が増えましたが、それ以前は家は寝るために帰ってくるような場所でした。朝暗いうちに仕事に出かけて夜暗くなって帰ってくる。でも、大磯駅に降り立った時に藤澤さんもおっしゃってましたけど、ほっとするんですよね。目の前に緑が広がっていて山があって海の香りがする。大磯って手の届くところに海と山があるでしょ。それがいいんですよね。それと心があつたかい人が多いですよ。それも大磯の大きな魅力だと思います。

藤澤 それ、わかります。そして、大磯にはこの町を誇りに思っている方が多いですよ。お店をやっているので色々なお客様がいらっしゃいます。そして、この町が好きなんだなって伝わってくるお話をよく伺うんです。自分が



岩田匡弘さん
大磯在住 30年

“大磯町をつくる9つの価値観”の制作を担当した「大磯ブランド戦略部会」部会長、「NPO法人大磯だいすき倶楽部」事務局長。大磯の好きな所は、ずっと見ても飽きない、常に変化する海の色。



大倉祥子さん
大磯在住 38年

大磯で建築設計事務所を開業、歴史的建造物の保存・活用を行う。郵国文化事業のイベントなどを手がけ、2017年6月から「大磯町観光協会」の会長に。大磯オープンガーデンを支えてきた一人でもある。



藤澤政謙さん
大磯在住 13年

雑貨とデザインとカフェのお店「magnet」オーナー。“大磯ブランドメッセージ&ロゴ”の作品が採択される。2017年、空き家の管理代行サービス「空き家・空き地パトロール隊」を設立し隊長就任。

住んでいる町を誇りに思うって素敵なことだなんて。こういう方々が多いということも大磯の 魅力の一つなんじゃないかなと思います。

大倉 私の住んでるところは大磯でも山の方なんですけど。本当に自然豊かですよ。以前、建築の仕事などでよく徹夜で仕事をする時があったんです。そうすると、朝、空が白んできたときにアオバトの鳴き声が聞こえてくるんです。それを聞くと「あ、アオバトが丹沢から飛んできたな」なんて。そういうのはいいですね。私今、アオバトのペンダントを付けているんですが、これ、大磯町の観光協会です。売ってます(笑)。それから家の近くで、野うさぎも出るんですね。自然がしっかり残っているのも魅力だと思いますね。

大磯町をつくる9つの価値観ができるまで

岩田 9つの価値観については、実際に言葉として形になるまで3年ほどかかっています。まず、大磯町に関わる団体に集まっていただき、「大磯町新た

な観光の核づくり推進協議会」が立ち上がりました。そこから、「大磯町にとっての観光ってなんだろう？」というところから始まったんです。観光と一言でいっても、それぞれのイメージは違います。大磯にとってふさわしい観光ってどんなものなんだろう？更にはその先の町の活性化の方向性ってなんだろう？と考えていったんです。



Q 用語解説

アオバト・・・照ヶ崎海岸で見ることができるといわれる渡り鳥の一種。丹沢山地から海水を飲み飛翔してることが確認されている。大磯町の観光キャラクター「いそべえ」はアオバトをモデルにしている。

大磯町新たな観光の核づくり推進協議会・・・大磯町に関わる22の団体が参加している協議会。これからの町の観光のあり方について、意見交換をしながら、理想的な観光のスタイルを模索している。P31に各団体名を記載。

—— そうなのですね。

岩田 話し合いを進める中で、大磯の魅力を考えた時、黑板におのおのが感じる魅力を書き出していったんです。最初は何十個という言葉が出てきたんです。

藤澤 その時にどんなことを話し合われたのですか？

岩田 例えば、観光というと、観光バスでたくさん人がきて、町が賑わうようなイメージがありますが、話し合いの中でそれは少し違うかもしれないねと。沢山の方々に訪れていただくのは嬉しいけれども、町が騒がしくなってしまうのは違うんじゃないかと。訪れていただいた方が大磯の町の普段の風景や日常を知ってくれてるような、そこを好きになってくれて、その魅力に触れて、また訪れていただけるような観光のスタイルだったらいいよねと。それはすごく大磯らしいなと思いました。そこを軸に9つの価値観をまとめていきました。当初は硬い文章や言葉だったものを、それをどんどん噛み砕いて優しく、わかりやすくしていった。そんな作業を2年ほどかけて、ひとつひとつ言葉にしていきました。そして、一昨年に“大磯ブランドメッセージと

そのロゴデザイン”の募集をさせていただいて、藤澤さんの案に決まったんですね。

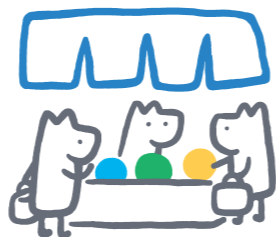
「さあ大磯で君の物語をはじめよう」

大倉 藤澤さんが作られたブランドメッセージの“物語”って、いい言葉ですね。どんな想いからこのメッセージを選ばれたのですか？

藤澤 ブランドメッセージを通じて、大磯がもっと魅力的な町になっていくにはどうしたらいいのかなって考えたときに、見た人が受け身の姿勢ではなくて、「さあ、○○しよう！」という、見た人の気持ちを促す表現にしたいなと思ったんです。

岩田 なるほど、そういうことなんですね。

藤澤 これまでの古くからあるお祭りの文化や別荘をつくってきた人たちの文化、“過去の物語”を大切にしつつ、



採択されたブランドメッセージとロゴデザイン



さあ、大磯で君の物語をはじめよう

現在、この大磯に住んでいる人たち、そして、これから住もうと考えている人たち一人ひとりが“新しい物語、魅力、文化”をつくっていく。「さあ、いま生きている私たちが大磯町の“魅力、文化”をつくっていきましょう！」という気持ちをメッセージに込めたいと思いました。そこで出来た言葉が「さあ、大磯で君の物語をはじめよう」です。この“物語”というのは、自分たちの日常であり、日々の暮らしです。それら大磯町の“魅力”にしていこう。大磯で仕事をする、暮らすこと、子育てもすべてを“魅力”にする。その“魅力”に惹かれた人が、いつか大磯に住んでくれ

るようになると思うんです。そして、その人がまた新しい物語をつくっていく。どんな物語か、それは、僕たち一人ひとりがつくっていける。全員が主役であるということです。

岩田 “物語”をつくらうって、日々の暮らしを大磯でつくるっていうイメージにもつながりますね。今、若い人た

Q 用語解説

「さあ大磯で君の物語をはじめよう」・・・大磯町をPRする“ブランドメッセージとロゴデザイン”を募集、藤澤さんが作ったメッセージとロゴが採択された。9つの円は9つの価値観を、9つの色は大磯の海と空をイメージする「ブルー」から、大磯の自然や里山をイメージする「グリーン」へとグラデーションを活かして表現している。シンプルで洗練された造形となっている。

ちが少しずつ大磯に移り住んできているんですね。様々なコミュニティに参加して、野菜やお米など、色々なものを作りながら、子育てをしたり。大磯ってすごく便利な町、という訳ではないと思うんです。例えば、夜7時頃駅を降りると真っ暗だったり(笑)。お店も早くに閉まりますしね。そんな町に移り住んでくるには、やっぱりその人たちが感じた魅力があるんだと思います。車が立ち入れない道もたくさんあり、一見不便にも感じますが、子どもが小道で遊んでいても事故の心配も少ない。子育てには適してるんじゃないか、そうともいえますよね。幼児教育の場も少しずつ増えているし、今少しずつ見えてきている観光のブランディングがゆくゆくはより“暮らしやすい町・暮らしてみたいと思える町”というところまでつながっていけばと思っています。なので、「物語をつくろう」というのは素敵だと思います。

みんながゆるやかにつながって、紡いでいく物語

藤澤 ところで、実は、私はこれからの大磯町に対して、あまり楽観的には考えていません。これは日本の社会全体の課題だと思うのですが。これから人口減少、高齢化が進んでいきますよ

ね。大磯町も少しずつ住民の数が減って、空き家が増えて町が閑散とし、税収も増えず、行政サービスも少しずつ縮小されていく。これから起こりうる未来は想像に難しくないと思います。そんな少し見えている未来を、少しでも明るくするためにも行政、そして私達自身もこれから危機感を持って様々なことに取り組んでいかないとはいけません。だからこそ、今回の観光を軸としたブランディング事業を通じて、これを機に大磯に暮らす人が増えてほしいです。

—— 本当にそうですね。

藤澤 僕は大磯にはまだまだ可能性があると思います。何かをはじめることが出来る土壌があるというか。少なからず自然もあるし、私たちが気づいていない魅力もまだまだあります。通勤も都内まで通うこともできるし、箱根だって近い。この環境って、すごく良



いなと思うんです。もちろん、なんでも好きなことが叶う町かと言ったらそれは違います。ただ、自分の物語を自分自身でつくっていける場所ではあると思っています。自発的に楽しんでいく、そういうことが出来る町であってほしいと思います。

岩田 何かをはじめることが出来る土壌がある、たしかにそうですね。町が大きすぎないから価値観の同じ人とつながりやすいってこともありますよね。価値観を共有できる人が何人か集うことができれば、グループができて1つの活動ができる。実際、“大磯農園”なんかは農業をテーマにいろんな世代の人が集まっていますよね。他にも大磯にはいくつもありますよね。1000年以上続くお祭りを通じて、集う人たちもいれば、大磯市のようなイベントで集うコミュニティもある。大小様々なコミュニティがいくつも存在していると思うんです。

—— コミュニティがいくつも！（驚）

Q 用語解説

大磯農園・・・休耕農地を再生させながら、多世代の人たちが田んぼや畑で“農”のある暮らしを体験できるコミュニティ農園。

大磯市・・・毎月第3日曜日に港で開催される朝市。西湘エリアのクラフト作家や、飲食店が150店舗ほど出展する、県内最大の朝市と言われている。

岩田 いろんな価値観があると思うんですけど、その価値観を共有できる人たちが今、少しずつ増えつつあるように感じます。大倉さんも深く関わっている、個人のお庭を愛でる“大磯オープンガーデン”、陶芸家とそのうつわに出会うために、町のギャラリーやカフェをめぐる“大磯うつわの日”などなど。そういったものが、だんだん増えていったときに大磯はもっと面白くなる気がしています。新しく引っ越してきた方も、元々住んでいる人も仲間になって、いろんな世代が一緒になれる。そういったひとつひとつが、「開発や産業で観光をつくる」というものではなくて、「今いる人たち、すでにある魅力・場所を生かす観光」として、町全体を活性化していく、そんな風になったら良いなと思っています。

大倉 “大磯オープンガーデン”には、岩田さんにも初回からお庭の方で参加いただいて、いつも本当にありがとうございます。

大磯オープンガーデン・・・毎年4・5月に個人のお宅のお庭を一般に公開し、訪れる方を草花たちがもてなす楽しいイベント。町外からも沢山の方が訪れる。

大磯うつわの日・・・大磯町で作家やうつわとの出会いが楽しめる、年に1度、秋口開催される展示・販売イベント。町内のカフェやギャラリーが会場となる。

岩田 そうでしたね。もう毎年恒例のイベントになりましたよね。

大倉 もともと商工会の企画でスタートしたのがはじまりでしたね。最初のころは2ヶ月くらいの期間だったんですが、あまりに期間が長くてお花が咲いていないタイミングがあったり。その節は岩田さんにもいろいろとご迷惑をおかけしました。

岩田 いえいえ。今では130を超えるお庭が参加されていますし、お客様の方も自分好みの庭をリサーチして、その庭だけを巡る方もいらっしゃいますね。

大倉 最近ではアフタヌーンティーという企画も始まっていて、カフェの方々が年々多く参加いただいております。イベント期間中の限定のメニューを考えてくださり、お花を巡りながらカフェでお茶も楽しめるようにしています。藤澤さんの magnet さんにも、ご協力いただいておりますね。

藤澤 僕もこういう大磯のイベントはすばらしいと思います。オープンガーデンをきっかけにお店を知ってもらえるっていう良さもありますし、実際に「今まで入ったことなかったけど今回初めて入ったわ」と言っていただけでも多いですから。



大倉 それは良かったです。ぜひ magnet さんには、次回のオープンガーデンの特別メニューに飲み物だけでなく、お菓子も付けていただけたら嬉しいです（笑）。

藤澤（笑）わかりました、次回はお菓子も付けましょう！

大倉 今大磯にはいろんなコミュニティが出来てきて、いろんな人同士がつながることで、もっとフラットな情報共有もできるようになりますね。コミュニティ同士が更につながって信頼関係の中で自由にどんどん動き始めれば、もっと面白くなってきそうですね。つながりを大事にしたいですね。

藤澤 本当にそうですね。

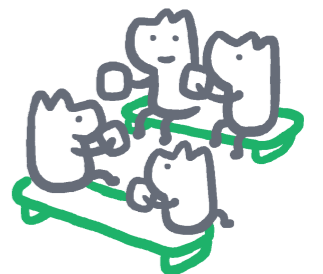
岩田 オープンガーデンを通じて、大磯の町に移り住んだ方もいらっしゃるの。最初はイベントを通じて大磯の町を訪れ、その魅力を感じていただいてから、移り住む。そういう方がどんどん増えて欲しいですね。春にはオープンガーデンあり、秋にはうつわの日あり。大磯市があり、左義長があり、入り口はたくさんあるから、自分がピタってきたところで大磯の町を訪れていただきたいし、町で暮らす皆

さんもどんどん参加して、それぞれがつながってほしいなと思います。

大倉 こうやって人と人が会うことで、対話が生まれ、それぞれの要望と課題をマッチングさせたり、共有する。するともっと町や暮らしが良くなることもありますよね。岩田さんがおしゃっていたように、町のサイズ感がいいのでしょうか。人と人との距離感ですかね。これから大磯で暮らす一人ひとりが大磯町の物語をどう紡いでいくのか。夢物語じゃない、素敵な物語を紡いでいきたいですね。

おわり

司会・ライター／
たけいしちえ



おわりに



大磯町をつくる9つの価値観はいかがでしたか？

すでに知っている魅力もあれば、改めて大磯町の魅力に気がつかれた方もいるかもしれません。この町で暮らす町民の皆さん一人ひとりが“町の観光大使”になって、それぞれが日々の暮らしの中で大切にしたい事柄を伝えていく。皆さんのひとつひとつのアクションが日本全国、ひいては世界中の人々へ広がっていく、そんな事を夢見ています。ぜひ、暮らしの中であなたらしい町の魅力を発信してみてください。

Action

1

見る & 知る

9つの価値観の中から、お気に入りの1つを見つけて、ご家族や友人とぜひお話してみてください。

Action

2

楽しむ

大磯町での日々の暮らしの中で、1つ1つの価値観を楽しみながら実践してみてください。

Action

3

発信する

町の魅力を実感した後は、今度は皆さんが友人や職場で思いっきり発信してみてください。



発行元：大磯町新たな観光の核づくり推進協議会

東日本旅客鉄道株式会社、大磯プリンスホテル、大磯飲食店組合、大磯逸品の会、(公財)神奈川県公園協会・湘南造園株式会社グループ、NPO 法人大磯ガイド協会、NPO 法人西湘をあそぶ会、大磯二宮漁業協同組合、湘南農業協同組合、株式会社ランナーズ・ウェルネス、学校法人東海大学、おおいそオープンガーデンホーム運営委員会、NPO 法人大磯だいすき倶楽部、神奈川中央交通株式会社、大磯港みなとまちづくり協議会、星槎湘南大磯キャンパス、大磯町区長連絡協議会、神奈川県湘南地域県政総合センター、神奈川県平塚土木事務所、(公社)大磯町観光協会、大磯町商工会、大磯町 (順不同)

事務局：大磯町 産業環境部 産業観光課

製作 / LIFT45

イラスト / たかしまつを

発行：2018年3月

この絵本掲載のイラスト・記事の無断での転載・複製・使用を禁じます。

